

Q 育児しながら気軽に図書館利用を

松尾 孝彦 議員



A 赤ちゃんタイム導入を検討

質問 幼い子どもを持つ母親から、子どもがぐずると周囲に迷惑になると思い、ゆっくりと本を選べないといった声があった。

東京都杉並区では事前に図書館利用者に知らせ、理解を得ながら協力してもらい、子どもが突然泣き出しても周囲を気にすることなく図書館を利用できる時間帯、「赤ちゃんタイム」を設けている。

本市も赤ちゃんタイムを導入すべきと考えるが、現在の状況と今後の活用の検討について伺う。

答弁（教育委員長） 市立図書館では、子どもの読書活動を推進するため、幼いころから本に親しめるようブックスタートや赤ちゃん・幼児向けお話会などの取り組みを行っており、児童コーナーのお話の部屋には約500冊の幼児向け絵本を常備している。

赤ちゃんタイムは本市における子ども読書活動を推進していく手法の一つとして、また、子育て中の方々の読書活動支援の一環として有効なものと考えている。

今後既存事業との調整や運営スタッフの確保、実施場所や時間など事業内容を精査し、赤ちゃんタイムの導入に向け検討する。

◎**その他の質問** マイナンバー制度について



赤ちゃんとお母さんのためのお話会

Q 超高齢社会の対応について

齊藤 芳久 議員



A 健康寿命の延伸に努める

質問一 超高齢社会に入ったが、今後の市の予想は。また、高齢者の定義を現在の65歳から70歳に引き上げた場合の高齢化率は。

二 市の高齢者にできる対応は。

三 市民に求める対応は何か。

四 支え合いの組織づくりを市全体で進める意識を拡大する方法は。

五 超高齢社会対策を市はどこまで行い、市民はどうあるべきか。

答弁一（市長） 本年3月に高齢化率は21割を超え、市は超高齢社会となった。12年後は28割を超え、医療・介護をはじめ社会保障費や生活への負担の増加が予想される。また、高齢者を70歳からと仮定すると、本年9月現在で高齢化率は約13・7割となる。

二 持続可能な介護保険制度を確立し、介護予防や生きがいづくり等に力を注ぎ、健康寿命の延伸に努める。

三 市民が自らの地域を支え、自らも困ったときには助けてもらう、支え合いの仕組みづくりに参加していただきたい。

四 今後市内全小学校区で地域支え合い協議会の設置に取り組む。

五 基本は自助自立であり、これを共助によって補完し、自助や共助では対応できない状況を公助が保障する。市は高齢社会を前提としたまちづくりに取り組んで来た。

